

令和4年度第3回大府市犯罪のないまちづくり推進会議 議事録

開催日時	令和5年2月17日（金）午後1時55分～午後3時00分
開催場所	大府市役所 5階 全員協議会室
出席委員	会長：岡村秀人：大府市長 委員：田中賢：日本大学教授、中山知乃：東海警察署生活安全課長、森下明雄：東海警察署大府幹部交番所長、伴浩人：大府市小中学校校長会代表、大島奈津美：大府市小中学校PTA連絡協議会代表、鎌田康子：大府市老人クラブ連合会代表、新名秀昭：東海大府事業所防犯協会大府支部代表、深谷多恵子：大府商工会議所代表、竹内清道：大規模小売店代表、山内とよ子：大府市地域婦人団体連絡協議会代表、杉浦文男：自主防犯ボランティア代表
欠席委員	鈴木菊代：大府少年補導委員代表、荻野裕子：公募委員、市野みさと：学生代表
事務局	信田光隆：市民協働部長、近藤真一：危機管理課長、近藤宏幸：危機管理課生活安全係長、吉村隆汰：危機管理課生活安全係主任、津坂拓男：危機管理課生活安全係地域安全専門員
傍聴人	なし
次 第	1 会長あいさつ 2 報告事項 （1）大府市の犯罪発生状況について 東海警察署生活安全課長 中山 知乃 氏 （2）令和4年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について 3 協議事項 令和5年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書（案）について 4 防犯対策事例の紹介 日本大学 教授 田中 賢 氏

1 会長あいさつ

市内の令和4年の犯罪発生状況は、前年と比較して、70件増加した。このことを踏まえ、本市としても、少しでも犯罪を減らしていくために、警察や地域の皆さんと一体となって、様々な防犯活動を実施していきたいと思っており、令和5年度予算には、今まで実施してきた特殊詐欺防止用電話機器等の補助制度に加えて、愛知県が実施する防犯機器の補助制度を活用し、積極的に防犯対策の補助制度を周知することで、市民の皆さんに活用していただきたいと思っている。防犯カメラについても、犯罪の捜査に非常に有効であるため、積極的に設置を推進していきたい。

本日の議題は、今年度の事業実施状況と、新たに策定した「第4次大府市犯罪のないまちづくり基本計画」に基づく、令和5年度の事業計画案を提示させていただくため、委員の皆さんにご審議いただきたい。

2 報告事項

（1）大府市の犯罪発生状況について

東海警察署生活安全課長 中山 知乃 氏

令和4年中の大府市内における刑法犯認知件数は360件で前年対比+70件となっているが、これは愛知県内全体でも同様で、前年と比較して増加傾向にある。平成1

5年をピークに毎年減少させてきたが、十数年ぶりに増加に転じた。しかしながら、ピーク時には何倍もの犯罪が発生していたため、地域の皆さまの活動のおかげで、犯罪が減少してきたと思っている。直近数年において、大幅な減少傾向であった理由は、新型コロナウイルスによる行動制限によるものと思うが、これから行動制限が解除されていくため、外出の増加に伴い、犯罪も増加することが懸念される。

最近、ニュースで話題となっている、「ルフィ」という犯罪集団のリーダーが指示を出している事件は、行き当たりばったりの犯罪ではなく、入念に情報収集し、実行されており、東海署管内でも同様な被害は散見されている。どのようにして、どのような情報が漏れているか、警察では分からない実情にあるため、自分の家は高級住宅ではないからと安心することなく、防犯対策をしていただきたい。個別のケースではなく、様々な泥棒への対策として、「留守宅と悟られないこと」、「鍵かけを徹底すること」、「窓には補助錠、防犯フィルムをつけること」、「夜間の留守中の電気点灯」等を行うことで、泥棒に狙われにくい環境づくりをしていただきたい。

特殊詐欺について、大府市内では令和4年中9件発生し、前年対比－5件だった。特殊詐欺の手口は知っているが、実際に自分が被害に遭っていることに気が付かず、高額な電子マネーカードを買いに来た客にコンビニ店員が声を掛けたことにより、被害に遭わずに済んだ事例が何件か報告されている。個人の防犯意識を高めることだけでなく、周りの人から被害を止められるような情報発信もしていきたいと思っている。

令和5年に入ってから犯罪情勢は、自転車盗が増加している。駅の駐輪場だけでなく、マンションの駐輪場や個人宅の敷地内から、施錠された自転車が盗まれているため、自宅だからと安心することなく、鍵かけは徹底するとともに、ワンロックだけでなくツーロックし、被害に遭わないようにしていただきたい。

(2) 令和4年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について
事務局より概要を説明。

(委員) 防犯カメラは、定期的に確認しているものなのか。

(委員) 防犯カメラは、定期的に確認するものではなく、犯罪が起きたときに、防犯カメラの近くを犯人が通っていないか等を確認する運用としている。痴漢等の不審者事案があった際に、道路上の防犯カメラを順に追っていくことで犯人の家を特定し、検挙に繋がった事例もあるため、設置されていることによる抑止効果と犯罪捜査において、防犯カメラは非常に有効なものだと感じている。

(委員) 例えば、防犯カメラで自動車での交通違反を確認できる場合は、取締りされるのか？

(委員) ケースバイケースではあるが、後から違反とするケースは当然にある。例えば、通報を受けて、防犯カメラが近くにあった場合、車のナンバーを特定しても同じナンバーの車は物凄い台数となるので、事案に応じてケースバイケースになるため、御了承いただきたい。

(委員) 吉田地区で寿大学があった際に、特殊詐欺防止講話を受け、高齢者にとっては耳が痛くなるような話もあったが、特殊詐欺の様々な手口について、詳しく分かりやすいお話をいただいた。一人暮らしの高齢者だと寂しくて、すぐ電話に出てしまい、つい話を聞いてしまい、優しい声で子や孫といわれると、信じて疑わない気持ちも非常に分かるため、地域を対象とした講座は非常にありがたいと感じた。

(事務局) ぜひ受けていただいた皆様には、友人や家族に高齢者がいる場合は、個人情

報を自分たちから話さないことを口コミしていただきたい。

3 協議事項

令和5年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書（案）について
事務局から概要を説明。

意見無し

4 防犯対策事例の紹介

日本大学 教授 田中 賢 氏

今回の会議で策定した、「令和5年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画」は、非常に現在の状況に即応している事業計画と感じた。

成人年齢の引き下げがあったという点で、大学で学生に対して教える立場としても、学生が勝手に契約してしまうという事例が多くあり、騙されていることに気が付かない学生も非常に増えていることを問題と感じている。我々からすると明らかにおかしいと感じることも、学生は気が付かないまま、犯罪に巻き込まれてしまっているケースもあるため、皆さまの身近な子や孫を見守っていただけると非常にありがたい。

また、年齢に応じた教育とは非常に重要で、小さな子どもには小さな子どもを対象とした教育をする等、成長の段階に応じた教育をしていただきたいと思う。

今回、紹介する内容は、防犯のまちづくりをSDGsのイシューマップに落とし込んだもので、防犯のまちづくりの課題は、様々な関係性を持っており、それらを1つずつ読み解くことで「どこに障壁があるのか」、「何が原因で何が起こるのか」を考えることが重要となる。

例えば、大府市の特徴の1つとして「交通の利便性が非常に高い」があるが、これにより「犯罪者が来やすくなる」等のマイナス点が出てくる。このマイナス点から派生して「防犯カメラの設置」、「駐輪場の整備」、「情報発信」等の問題への対策案を検討していく必要が出てくるように、防犯のまちづくりに対して様々な視点から考えていくマップを作成している。

この表は未完成であるため、マップを完成させて大府市の防犯のまちづくりに少しでも力添えしたいと考えている。

以上